

近代文学研究叢書

第五十六卷

昭和女子大学

近代文化研究所

近代文学研究叢書

第五十六卷

昭和59年7月10日 初版印刷発行

〔定価 5900円〕

著者	昭和女子大学近代文学研究室
発行者	東京都世田谷区太子堂一―七 石 津 純 道
印刷所	大文堂印刷株式会社
発行所	東京都世田谷区太子堂一―七 昭和女子大学近代文化研究所 振替口座東京四―一七〇八六七 電話 (代) 五一三一―番 (代)

近代文学研究叢書



宮原晃一郎
(1882.9.2~1945.6.10)



西田幾多郎
(1870.5.19~1945.6.7)



島木健作
(1903.9.7~1945.8.17)



三木清
(1897.1.5~1945.9.26)

56
卷

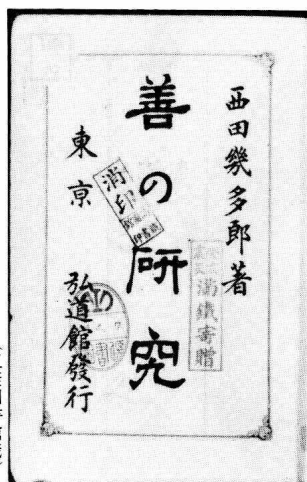


小林愛雄
(1881.11.30~1945.10.1)

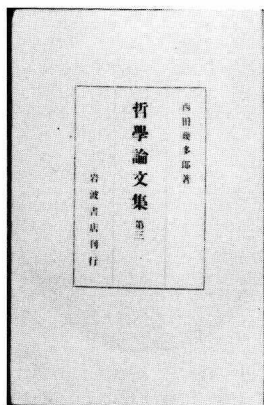
西田幾多郎

西田幾多郎
著
善の研究

筆跡



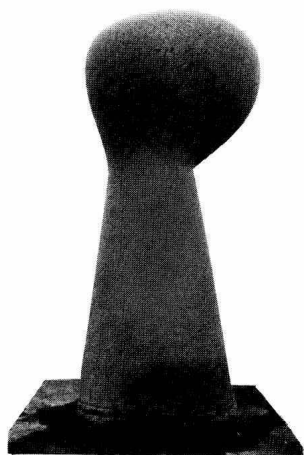
「善の研究」 明治44年1月刊



「哲学論文集 第三」
昭和14年11月刊



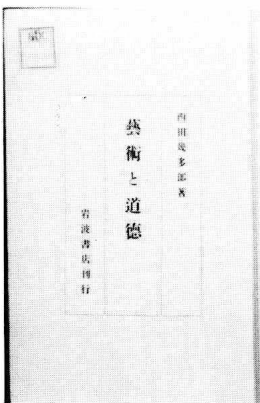
「哲学論文集 第二」
昭和12年11月刊



歌碑（鎌倉市七里ヶ浜）



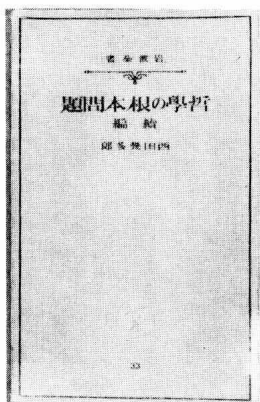
「働くものから見るものへ」昭和2年10月刊
——（昭和女子大学蔵）——



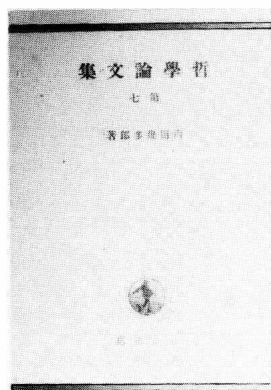
「芸術と道徳」大正12年7月刊
（三康図書館蔵）



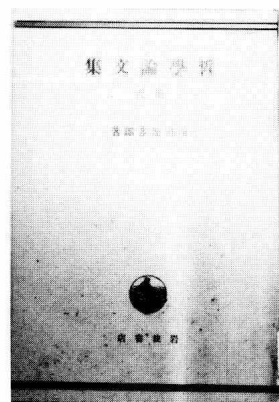
「続思索と体験」昭和12年5月刊
——（三康図書館蔵）——



「無の自覚的限定」昭和7年12月刊
（昭和女子大学蔵）



「哲学論文集 第七」
昭和21年2月刊



「哲学論文集 第六」
昭和20年12月刊



「哲学論文集 第四」
昭和16年11月刊
（三康図書館蔵）

宮原晃一郎

筆跡

纂帝行狀記

アレキサンダー・ストラス

紅雲隊

創世以来七十七年 耶蘇基督に由れば
 千五百六十二年の五月一日より其後、七月
 二十三日、毎年の「舊王」マヌーウのサ
 セレリヤンタイ公爵は、その子に若くは其の
 子に代るもの、その子に代るもの、その子に

馬をすゝめに来た。

公等の後方には危從う武士と召使の一團と
が騎馬で従つてゐた。

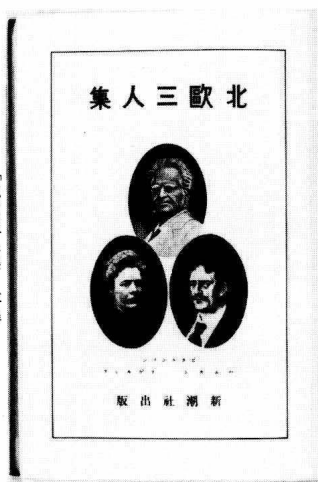
公將はそれぞ、まゝのや年をりつて満
しにたつた。皇帝イソ・ワモリエグーフ

今は公卿をむづろをント王の處へ遣はし、
 當時幾年を續けしに、おた戦争をやめ、平和條

約を取り違はうとしたのか。たか、皇帝は人
星は史載に於た、ニキヌ・ロマ・ノ・ケイウ

加付國より利益を碩強に主張したことは、

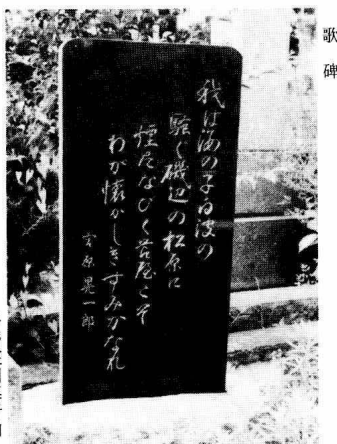
(宮原典子氏藏)



「北欧三人集」昭和3年9月刊



晃一郎と妻キク・長女典子



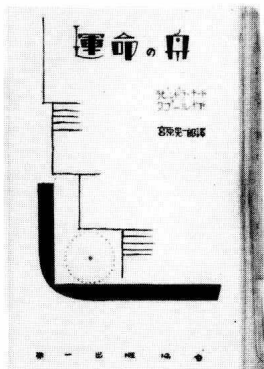
歌
碑

多磨霊園墓所内

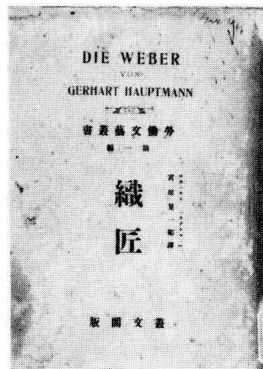
昭和女子大学蔵



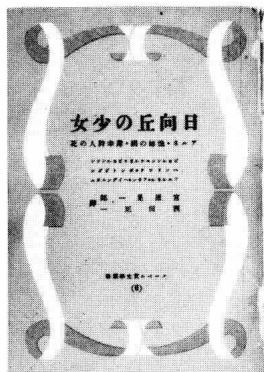
「アンデルセン童話」
大正15年4月刊（五版）



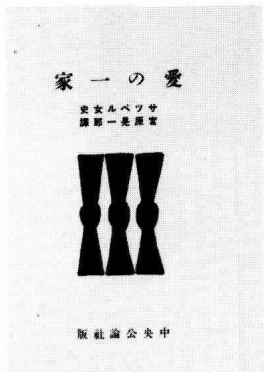
「運命の舟」大正14年4月刊



「織匠」大正9年2月刊



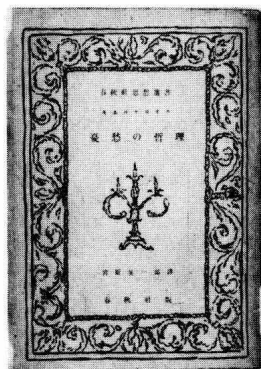
「日向丘の少女」昭和15年12月刊



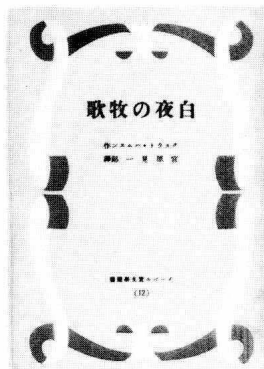
「愛の一家」昭和14年4月刊



「嘘の力・人生・世界の顔」
昭和6年2月刊



「憂愁の哲理」昭和21年7月刊



「白夜の牧歌」昭和16年7月刊



「ネバタ号の小船長」
昭和16年1月刊

「第一義」昭和11年11月刊



「赤蛙」昭和23年12月刊



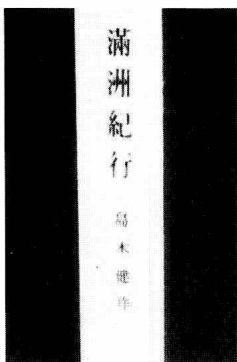
「人間の復活」前後篇
昭和15年5月、昭和16年10月刊



「三十年代」昭和11年11月刊



「或る作家の手記」
昭和15年12月刊



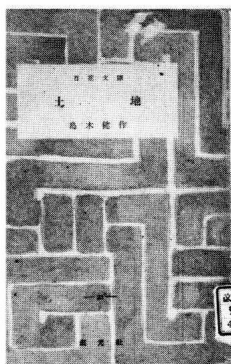
「満洲紀行」
昭和15年4月刊



「随筆と小品」
昭和14年4月刊



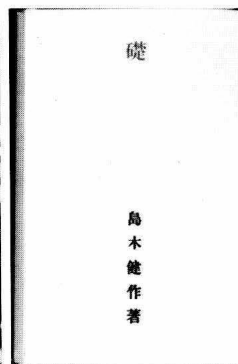
「第一義の道」
昭和14年12月刊



「土地」
昭和22年7月刊



「出発まで」
昭和21年3月刊



「礎」
昭和19年11月刊



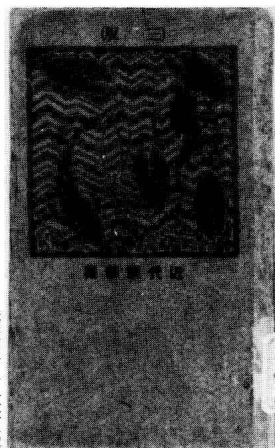
「地方生活」
昭和16年12月刊

小林愛雄

秋の調
小林愛雄
秋の日の息に
上流並とならば
河よりかへそ
君は住ま宿りなく
流るるゆかり

(小林国雄氏蔵)

「近代詞華集」大正2年2月刊(三版)



(昭和女子大学蔵)

「管絃」明治40年4月刊



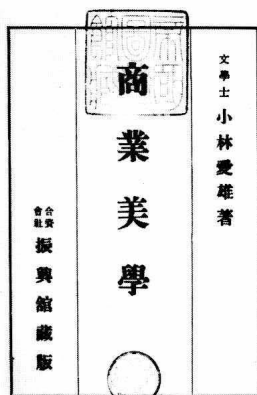
(小林国雄氏蔵)

歌碑

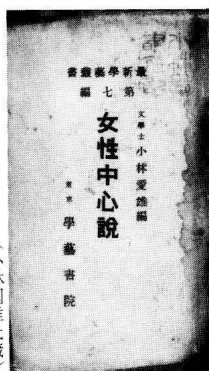


(石川県動橋ふもと)

「商業美学」昭和4年4月刊

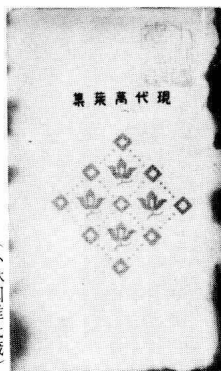


(国立国会図書館蔵)



(小林国雄氏蔵)

「女性中心説」
大正8年10月刊



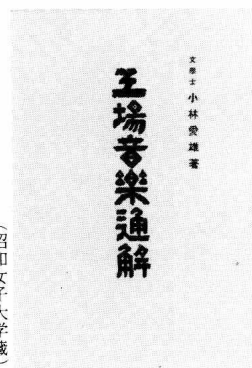
(小林国雄氏蔵)

「現代万葉集」
大正5年4月刊



(小林国雄氏蔵)

「支那印象記」
明治44年11月刊



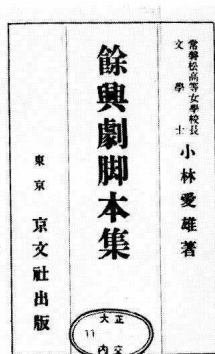
(昭和女子大学蔵)

「工場音楽通解」
大正12年1月刊



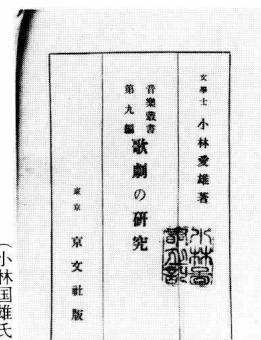
(小林国雄氏蔵)

「世界子守唄集」
大正11年10月刊



(国立国会図書館蔵)

「余興劇脚本集」
大正11年9月刊



(小林国雄氏蔵)

「歌劇の研究」
大正14年6月刊



(小林国雄氏蔵)

「詩と音楽と舞踊」
大正13年10月刊



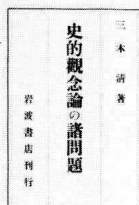
(小林国雄氏蔵)

「現代英詩選」
大正13年6月刊

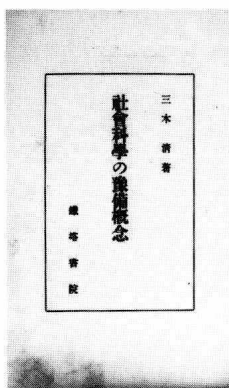
三 木 清



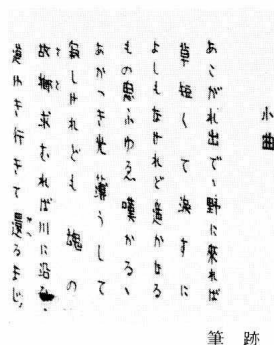
哲学碑（竜野市自然公園内）



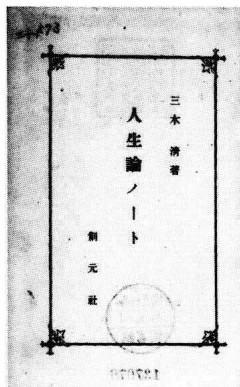
「史的観念論の諸問題」
昭和4年6月刊
（昭和女子大学蔵）



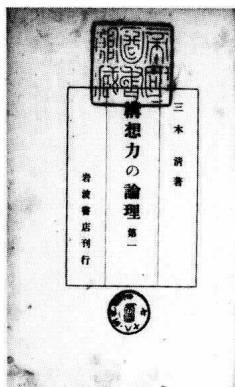
「社会科学の予備概念」
昭和4年4月刊
（国立国会図書館蔵）



筆 跡



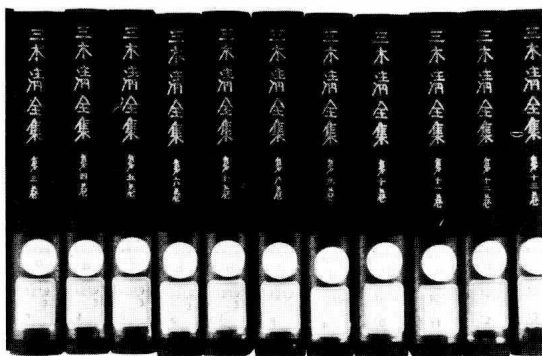
「人生論ノート」
昭和24年3月刊（29版）
——（国立国会図書館蔵）——



「構想力の論理」第一
昭和14年7月刊



「歴史哲学」
昭和12年2月刊
（昭和女子大学蔵）



「三木清全集」全25巻 昭和41年10月～昭和43年5月刊
(昭和女子大学蔵)



(竜野市自然公園内)

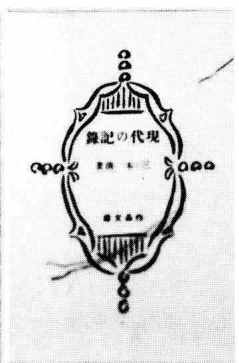
哲学碑



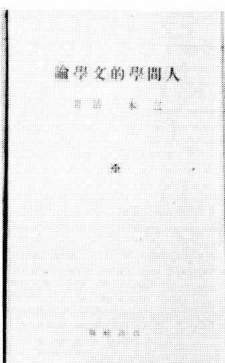
「知識哲学」
昭和17年3月刊
(霞城館蔵)



「時代と道徳」
昭和14年6月刊
(昭和女子大学蔵)



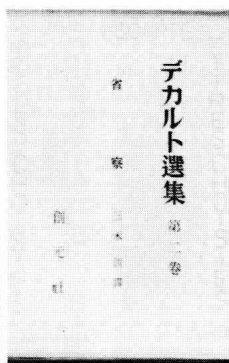
「現代の記録」
昭和14年2月刊
(霞城館蔵)



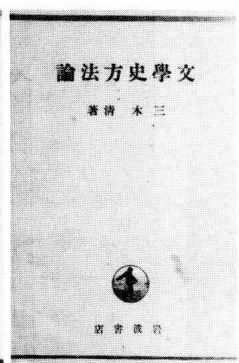
「人間学的文学論」
昭和9年7月刊
(昭和女子大学蔵)



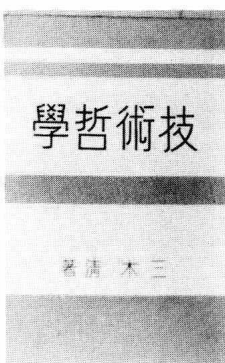
「哲学と人生」
昭和25年5月刊
(国立国会図書館蔵)



「デカルト選集」第二巻
昭和23年5月刊
(霞城館蔵)



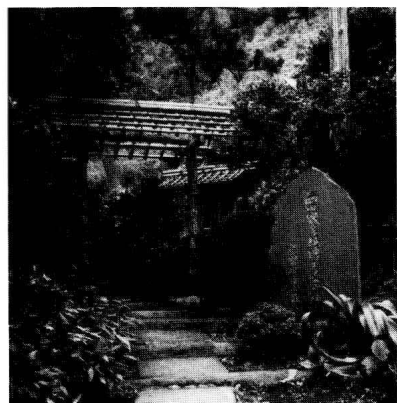
「文学史方法論」
昭和21年4月刊
(昭和女子大学蔵)



「技術哲学」
昭和17年9月刊
(霞城館蔵)



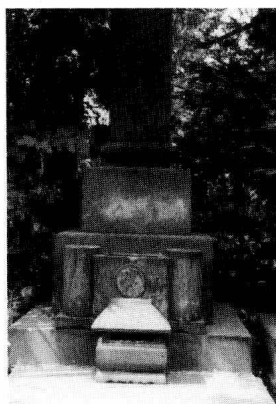
三木清生家（岡山県竜野市）



西田幾多郎旧居（神奈川県鎌倉市）



三木清墓所
正見寺(東京都)



小林愛雄墓所
谷中天王寺(東京都)

遺跡をたずねて



西田幾多郎墓所
東慶寺(鎌倉市)



宮原晃一郎墓所
多磨霊園(東京都)



島健作墓所
浄智寺(鎌倉市)

目次

口 絵	一
『近代文学研究叢書』の成立	四
凡 例	七
西田幾多郎	元
宮原晃一郎	二七
島 木 健 作	三三
小 林 愛 雄	四〇
三 木 清	四一
PERSONALITY PROFILES	五〇
卷 末 付 記	五五
第五十五卷年表補遺・正誤表	五九
索 引	五九

『近代文学研究叢書』の成立

『近代文学研究叢書』は昭和三十一年一月、昭和女子大学光葉会からその第一巻が発行された。以来、明治期全十二冊、大正期全十三冊、昭和期が本巻を加えて三十一冊を刊行、続刊中である。

本叢書は、創立者人見圓吉（東明）が建学の精神に基づき優れた研究者の養成を目的とし、これによって文学日本の近代相がいささかでも究明出来ればという強い願望により創められたもので、本学学生による近世の国文学者、洋学者についての研究調査をまとめた『文学遺跡巡礼』（昭和十三年十月、第一輯発行）が母胎となっている。

昭和二十年、戦争も末期に近づいた四月の大空襲により、本学は校舎とともに蔵書と未発表原稿の一切を焼失した。青年時代、三木露風、野口雨情らとともに早稻田詩社をおこして活躍したかつての詩人東明は、この時から明治の詩書をはじめ近代文学関係の文学書の蒐集にとりかかり、現在の近代文庫の基礎が固められた。神田の古書展では「文学書の値をつり上げる」という評判が立つほどの蒐集ぶりで、こうして蒐められた典籍をもとに近代の文学者、思想家約八百名の伝記、業績に関する資料文献の大きなカードの作成には日本文学科の学生が総動員され、『近代文学研究叢書』の基礎的資料の基盤が築かれたのである。なお、母胎となった『文学遺跡巡礼』はその名の示す通り、生涯と業績に加えて遺跡の実地踏査、遺族の訪問記を特色としたが、本叢